

公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団

30周年記念誌

The 30th Anniversary of Mitaka City Sports and Culture Foundation



これからも、ともに



Contents

ご挨拶・お祝い	3
三鷹中央防災公園・元気創造プラザ SUBARU総合スポーツセンター／生涯学習センター／三鷹中央防災公園／屋外スポーツ施設	4
SUBARU総合スポーツセンター	6
三鷹市生涯学習センター	8
三鷹市芸術文化センター 風のホール／星のホール	10
三鷹市公会堂 光のホール／さんさん館	13
三鷹市美術ギャラリー	14
太宰治文学サロン／太宰治展示室 三鷹の此の小さい家	15
三鷹市山本有三記念館	16
三鷹市吉村昭書斎	17
みたか井心亭	18
三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー	19
30年の歩み	20
現役員	23



ご挨拶・お祝い

財団設立30周年を迎えて



公益財団法人
三鷹市スポーツと文化財団
理事長

土屋 宏

このたび、三鷹市スポーツと文化財団は設立30周年を迎えました。この間、多くの市民の皆様、そして三鷹市をはじめとする関係機関の皆様にご支援とご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

平成7年、芸術文化センターの開館に向けて発足した「三鷹市芸術文化振興財団」は、「文化の薫り高いまち三鷹」の実現に向け、音楽・美術・演劇・文芸の各分野で、内容にこだわった三鷹ならではの企画を、市民の皆様にお届けするよう努めてきました。また、平成28年、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの開館に向けて「三鷹市スポーツと文化財団」へと改組してからは、生涯学習とスポーツの振興も担う団体として、部門間の連携を深めながら組織を挙げて、幅広い市民活動を支える取り組みを進めてきました。

私たちがお届けする一つひとつの活動が皆様の生活に彩りと潤いを添える一助となるよう、これからも努力を続けてまいります。今後とも、皆様の変わりぬご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

お祝いの言葉



三鷹市長

河村 孝

三鷹市スポーツと文化財団の設立30周年に、心からお祝いを申し上げます。

平成7年に前身の三鷹市芸術文化振興財団が発足しました。長年にわたる音楽、演劇、美術、文芸の分野での豊かな事業実施は、三鷹市が文化の薫り高いまちとして評価される一翼を担ってきました。平成28年に、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの開館に合わせて、スポーツと生涯学習の分野を加え三鷹市スポーツと文化財団となってからは、より幅広い市民活動を支援し続けており、貴財団が管理運営する施設の利用者は、年間約132万人に上っています。

令和に入ってから、令和4年に三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー、令和6年に三鷹市吉村昭書斎、令和7年に三鷹市井口グラウンドがオープンし、事業の幅が広がることで、益々重要な役割を担っています。

次の10年に向けて、三鷹市が進める芸術・文化活動や、生涯学習・スポーツ活動の充実を両輪として共に育み、三鷹市民の皆様一人ひとりの創造性と豊かさをひろげ、心と体の健康を高めるまちづくりを推進するために、貴財団の更なる発展をご祈念申し上げます。



三鷹市議会 議長

伊藤 俊明

このたび、三鷹市スポーツと文化財団が30周年を迎えられたことを、市議会を代表しまして心からお祝いを申し上げます。

市民のスポーツ活動の推進、芸術文化活動の奨励、社会教育を含む生涯学習活動の推進を図ることにより、心身共に健やかな市民生活の形成と豊かな地域社会の発展の寄与にご尽力されました歴代理事長をはじめ、理事、関係者の皆様にご心から敬意を表すると共に、感謝申し上げます。

市民の皆様からの要望等が多様化する中、貴財団が果たされます役割はますます重要となっており、スポーツ事業、芸術文化事業、生涯学習事業、広報宣伝・友の会事業を通じて、市民生活に活力を与えられるような魅力ある事業を引き続き実施いただくことで、さらに活発なご活躍をいただきますよう期待申し上げます。

結びに、設立30周年というひとつの節目を契機とされ、三鷹市スポーツと文化財団のさらなる発展と、関係者の皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



三鷹中央防災公園・元気創造プラザ SUBARU総合スポーツセンター／生涯学習センター ／三鷹中央防災公園

181-0004 東京都三鷹市新川6-37-1
Tel: 0422-45-1111

三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、地上5階、地下2階建ての、災害時に三鷹市の拠点となる施設として、平成29(2017)年4月にオープンしました。

元気創造プラザには総合防災センター、生涯学習センター、福祉センター、総合保健センター、子ども発達支援センター、SUBARU総合スポーツセンターと多様な機能が融合しており、財団では、SUBARU総合スポーツセンターと生涯学習センターの管理運営のほか、同プラザ全体の共用部分及び三鷹中央防災公園の管理も行っています。

SUBARU総合スポーツセンター (ネーミングライツパートナー：株式会社SUBARU)

元気創造プラザの地下2階、地下1階、1階に、メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、小体育室、トレーニング室、プール、軽体操室、多目的体育室、弓道場・アーチェリー場などを有する施設です。年間約50万～60万人の利用があります。各種スポーツを行うことができ、気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ教室なども開催しています。



メインアリーナ



プール



トレーニング室



多目的体育室

生涯学習センター

元気創造プラザの4階、5階に、ホール、学習室、創作室、料理実習室、和室などを有する施設です。年間約8万～9万人の利用があります。各種講座を実施するとともにさまざまなライフステージにおける生涯学習の機会と場を提供しています。



ホール



学習室



創作室



料理実習室

三鷹中央防災公園

■ **日本無線 中央広場** (ネーミングライツパートナー：日本無線株式会社)
敷地中央に広がる開放的な緑地スペースで、健康器具や円形のベンチがあります。広場外周の園路(約230メートル)は、ランニングやウォーキングにも活用できます。

■ **西広場**
扇形状に広がる広場で、すべり台やシーソーなど、幼児・児童向けの遊具があります。

■ **東広場**
多目的スペースや市民花壇があります。
災害用仮設トイレやかまどベンチ、防災パーゴラなどの防災関連設備も設置しています。



日本無線 中央広場



東広場

屋外スポーツ施設

三鷹市大沢総合グラウンド 三鷹市大沢5-7-1

サッカー・ラグビー場、軟式野球場(2面)、多目的スポーツ広場(2面)、ソフトボール場(2面)、練習場、テニスコート(6面)を有する施設です。平成29(2017)年4月から財団が管理しており、年間約25万人の利用があります。



サッカー・ラグビー場



野球場



多目的スポーツ広場



テニスコート

三鷹市大沢野川グラウンド 三鷹市大沢5-21-12

野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート(4面)を有する施設です。大雨の時には、野川の水を一時貯留し、治水施設として洪水を防止します。令和5(2023)年2月から財団が管理しており、年間約3～4万人の利用があります。



野球場



サッカー・ラグビー場



テニスコート

三鷹市新川テニスコート 三鷹市新川6-23-13

クレーコート(4面)を有する施設です。平成29(2017)年4月から財団が管理しており、年間約1万5千人の利用があります。



新川テニスコート

三鷹市井口グラウンド 三鷹市井口1-6-1

多目的グラウンドやクラブハウス等を有する施設です。暫定的に活用されてきた井口特設グラウンドが、令和7(2025)年7月に恒久的なグラウンドとして整備され、開設から財団が管理しています。



井口グラウンド

Message



三鷹市スポーツ協会 会長

吉野利明

公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団の 設立30周年を迎えるにあたり

三鷹市スポーツと文化財団設立30周年おめでとうございます。
かつて体育と芸術文化は別々の所管でありましたが、三鷹市スポーツと文化財団の設立によって一つの窓口になり、それぞれの分野の発展に取り組んでこられました。市民の皆さんの中には、スポーツと文化活動の両方を楽しんでいる方も多いと思います。
今後も、財団の支援によって三鷹市がより快適なまちへと発展していけますよう、一層の活躍を期待してやみません。



SUBARU総合スポーツセンター

181-0004 東京都三鷹市新川6-37-1
三鷹中央防災公園・元気創造プラザ内
Tel: 0422-45-1113

各種スポーツやトレーニングなどのための設備が整備された市内最大の屋内公共スポーツ施設です。団体への貸出のほか、トレーニング指導や体力の状態に応じたプログラムの提供、スポーツ教室、イベントの開催などを行っています。

トレ室はじめてサポート～健康・体力相談事業～



トレ室はじめてサポート～健康・体力相談事業～

市民の健康の保持と健康増進、介護予防等のため、トレーニング室で「トレ室はじめてサポート～健康・体力相談事業～」を実施しています。健康・体力づくりを支援する専門的な知識・経験を持ったスタッフが、一人ひとりに合った運動プログラムを提供しています。

スポーツ教室事業



キッズ体育

着衣水泳体験教室



かけっこ教室

ドッジボール教室

ライフステージやライフスタイルに応じた約100の「スポーツ教室」を開催しています。スポーツ教室では様々な世代の方の、各自の体力やスキル・レベルの違いに対応したプログラムや介護予防などを目的としたプログラムを実施しています。また、ワンコイン(500円)で受講することができる教室も実施するとともに、かけっこ教室等の屋外スポーツ教室なども実施し、多くの市民に運動の機会を提供しています。

三鷹市との共催事業(スポーツイベント事業)



スポーツフェスティバル

ポッチャみたかカップ

著名人による親子体操教室、様々なスポーツやポッチャなどのパラスポーツ体験の機会を提供する「みたかスポーツフェスティバル」、市内を4区間に分けてタスキをつなぐ「三鷹市民駅伝大会」、幼児から大人まで、障がいの有無にかかわらず幅広い層で楽しめる「ポッチャみたかカップ」などを三鷹市と共催で実施しています。スポーツに親しむ機会の提供や、明るく健康的な市民生活と活力に満ちたまちづくり、多世代交流や障がいに対する理解促進に寄与しています。

地域や三鷹市スポーツ協会等との連携事業

三鷹ゆかりの企業や大学、三鷹市スポーツ協会加盟団体との連携により、バスケットボールやバレーボール、水泳、相撲などの様々なスポーツ教室を実施しています。



ちびっこ水遊び教室



すもう体験教室

障がい者スポーツ教室事業

障がい者や、支援が必要な未就学児と小学生等を対象に、スポーツのきっかけづくりとなる初心者向け「障がい児サッカー教室」などを開催しています。



障がい児サッカー教室

スポーツボランティア支援事業

スポーツ大会などのイベント開催時の熱中症予防策や発症した方に対する適切な対処法を学ぶ「熱中症対応講習会」、事故などが発生したとき、救急隊員が到着するまでの間にとるべき適切な対応を学ぶ「普通救命講習会」、障がいのある方が、楽しく安心してイベントに参加していただけるよう、必要な知識やスキルを学ぶ「障がい者支援スキル講習会」を実施しています。



熱中症対応講習会



普通救命講習会



障がい者支援スキル講習会

種目別個人開放事業

少人数でもスポーツを楽しむことができるよう、個人を対象とする体育施設の「種目別個人開放事業」を実施し、SUBARU総合スポーツセンターの利用促進を図っています。現在は、「卓球」、「バドミントン」、「バスケットボール」、「ボルダリング・ヨガ・ストレッチ」を開催しています。

弓道・アーチェリー講習会事業

弓道及びアーチェリーの未経験者や初心者、一定の技量を持つ初級者を対象として講習会を開催しています。また、技量認定会において個人・団体利用時に必要となる技量の認定と施設使用のためのオリエンテーションを実施し、安全な運営に努めています。



三鷹市生涯学習センター

181-0004 東京都三鷹市新川6-37-1
三鷹中央防災公園・元気創造プラザ内
Tel: 0422-49-2521

社会教育会館の機能を引き継ぎ平成29(2017)年4月に開館。「いつでも、どこでも、だれでも、そしていつまでも」という考えを継承しつつ、「ともに学び、学びを活かし、学びの成果や絆が地域に受け継がれていく心豊かな社会をつくる」という目標のもと、生涯学習の拠点施設として、市民の皆様や地域社会のニーズに対応した学習機会や学習の場を提供しています。

三鷹市民大学事業

総合コース

市民主体で企画・運営を行う今年で58年目を迎える生涯学習講座。ゼミナール形式による年間30回の継続学習を通じ、生活に即した地域課題の解決を目指した講義・討議・発表などを行います。通常の学習にとどまらず、生涯学習センターフェスティバルでの発表、学習記録の発行など、学びの成果を広く発信する活動を展開しています。市民同士のネットワークが形成され、自主グループの立ち上げや、地域活動の担い手となるなど、人財育成の場としても三鷹市が目指す市民との協働のまちづくりに寄与しています。



総合コース

一般教養コース

シニア世代を対象とした「むらさき学苑」のほか、乳幼児や思春期の子どもの保護者等を対象とした「子育て講座」、さまざまな知識や技能をもつ市民が、市民講師としてのスキルを身につけることを目的とした「市民講師養成コース」を実施しています。



むらさき学苑

みたか学(地域学)

生涯学習センターオリジナルの講座シリーズ。市民が「みたか」についてのさまざまな事柄を学び直し、改めて考えることを目的としています。郷土史編「みたかのアウトラインを歩く」では町ごとの歴史を学び、市境を歩いて市の形を体感しました。そのほか、農業編「三鷹の農業を知る」、文学編「文学のまち・三鷹を知る」「太宰治と三鷹」、自然環境編では、かいぼり後の井の頭公園や野川公園での自然観察を実施しました。また、「戦争と三鷹」をテーマに戦争遺構を訪ねるフィールドワーク、企業や大学・研究機関と連携した「SUBARU星空観望会」「みたか地域観光」、天文台のあるまちならではの「なぜ三鷹市に国立天文台があるのか?」「すべての人への最新天文学入門」など幅広いテーマの講座を開催しています。



みたかのアウトラインを歩く

芸術文化講座

財団が開催する公演事業や企画展に関連した講座です。「オーケストラを聴いてみよう」「ジャズの時間」「ジャズのつかいみちを考える」「初心者向け落語講座」など、音楽や舞台芸術に関する講座のほか、「文豪の手紙を読む」「太宰治と井伏鱒二」といった文学講座、美術では「はいばらの千代紙で作る小さな和綴じ本」のほか、収蔵作品展関連の講演会や版画・日本画の体験講座などを開催しています。



ジャズの時間

人財養成講座

三鷹市域に伝わる江戸時代の古文書をテキストに、古文書解読法を身につけることを目的とした「三鷹の古文書を読む」を三鷹市生涯学習課と連携して開催しています。また、中央防災公園内の市民花壇の管理を市民参加で行うことを目的とし、園芸の基礎を学ぶ花壇サポーター養成講座をNPO花と緑のまち三鷹創造協会の協力により開催しています。



三鷹の古文書を読む



花壇サポーター養成講座

趣味教養講座

歴史、美術、教育、哲学、科学、語学などさまざまな分野の座学のほか、伝統文化、音楽、デザイン、料理、手芸、フラワーアレンジメントなど、多様化する市民の学習意欲に応える講座を開催しています。



アフタヌーン英会話



春を告げる黄色い花のアレンジメント

小・中学生、高校生対象講座

ネーミングライツ企業の協力により「SUBARUものづくり教室」や「日本無線株式会社協カラジオ工作教室」の開催をはじめ、陶芸利用団体による「チャレンジ!陶芸」、芸術文化協会と連携した、能楽、日本舞踊、邦楽、民謡、俳句、書道、囲碁などの伝統文化やバレエの体験講座を開催しています。そのほか、市民大学事業に登壇した講師による特別授業「市民大学ジュニアキャンパス」やプログラミング、大学生から学ぶ勉強法、オンライン哲学対話など、子どもたちが普段の生活では体験できない学びの場づくりを行っています。



芸術文化協会連携 夏を書く こども書道

生涯学習相談

生涯学習相談員を配置し、講座の案内や自主グループの紹介など生涯学習に関するさまざまな相談に対応しています。

学習スペース開放

児童生徒の放課後の居場所づくりと個人の生涯学習支援を目的として毎日実施しています。利用状況により団体利用がない学習室の一部を開放するほか、夏休み期間中には終日、学習室1を開放し、令和6(2024)年度には約1万人の利用がありました。

子どもふらっとプレイス

小中学生の居場所づくりや多世代交流を目的として開催しています。プログラム体験ができるほか、友達とゲームをしたり一人でのんびり過ごしたりすることもできます。



絵手紙で夏野菜を描こう!

生涯学習センターフェスティバル

毎年12月に市内の自主グループなどが参加して開催するお祭りです。日頃の活動の成果をステージ公演や展示で発表するほか、手作り品や飲食物の販売、ワークショップ、特別講演が開催され、多くの来場者でにぎわいます。



ステージ公演



三鷹市芸術文化センター

風のホール／星のホール

181-0012 東京都三鷹市上連雀6-12-14

Tel: 0422-47-9100 (施設受付・事務局)

三鷹市芸術文化センターは、さまざまなジャンルの芸術文化を発信する複合文化施設として平成7(1995)年11月に開館しました。風のホール、星のホールの2つのホールを中心に美術創作・展示室、音楽練習室、会議室で構成されており、ピアノやバレエの発表会、絵画制作、楽器練習など市民の多様な芸術活動の場として親しまれてきました。市内外から多くの皆様にお越しいただき、開館以来30年間で約440万人の方々に利用されました。

演劇公演



MITAKA "Next" Selection 26th
いいへんじ「われわれなりのロマンティック」
撮影：月館 森



開館当初より、世代を問わずに楽しむことのできる演劇公演を実施しています。将来性のある演劇人を応援する目的から、平成12(2000)年からは若手劇団支援フェスティバル「MITAKA "Next" Selection」を開催しています。出演後、演劇界の芥川賞とも呼ばれる岸田國士戯曲賞を受賞した作家も少なくありません。また、中でも脚本と演出に相当の力のある劇団をフェスティバルの枠外で招致し、様々な公演にチャレンジしています。

落語公演



星のホールでの落語会には、柳家花緑や、立川志らく、林家たい平、柳家喬太郎をはじめとした人気落語家が多数出演します。春風亭一之輔や桂宮治らによる、小学生や未就学児から参加することも寄席も年に1度開催しています。多彩な流派の演者が出演することで、幅広い層の方にお楽しみいただいております。

映画上映会



小津安二郎や黒澤明などの監督特集や、原節子や高峰秀子などの俳優特集、『男はつらいよ』シリーズの一挙上映、銀幕を彩った数々の名優の特集など、日本映画を中心にした特集のほか、ミュージカルや子ども、夫婦の愛などテーマを決め、国内外作品の特集上映を実施しています。

朗読会



芸術文化センターのすぐそばに太宰治が眠る墓地があることから、太宰治作品の朗読会を毎年実施しています。これまでに、久米明、大杉漣、豊川悦司、リリー・フランキー、竹中直人、安田顕、藤木直人などの人気俳優が出演し、毎年好評を得ています。縁側や書斎風の舞台セットもあれば、椅子とライトだけのシンプルな舞台もありました。



風のホール



星のホール



美術創作・展示室



音楽練習室

国内外のアーティストによる音楽公演

風のホールの響きを生かした三鷹でしか聴くことのできないオリジナリティあふれる公演事業を展開しています。国内外で活躍するトップクラスのアーティストや今後の活躍が期待される若手アーティストによるコンサートを開催するほか、幼い頃から本格的なコンサートに楽しんでもらうことを目的とした「ファミリーコンサート」なども開催し、さまざまなジャンルの音楽を数多くお届けしています。



フランチェスコ・トリスターノ・ピアノ・リサイタル
©Ryuya Amao



ジョヴァンニ・ソツリマ 無伴奏チェロ・リサイタル
【関連企画】即興演奏ワークショップ
©松山晋也



上野耕平×山中惇史×石若駿
©Junta Shirai

トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア

三鷹市芸術文化センターの開館と同時に三鷹市出身の指揮者、沼尻竜典(三鷹市名誉市民)によって創設されたプロフェッショナル・オーケストラです。風のホールを拠点として活動し、メンバーは国内外のオーケストラやソリストとして活躍する日本人の若手演奏家が多く参加しているのが特徴です。年2回、風のホールで定期演奏会を開催しています。



第91回定期演奏会 オペレッタ『こうもり』より

Message



トウキョウ・ミタカ・
フィルハーモニア音楽監督
三鷹市名誉市民

沼尻竜典

公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団の 設立30周年を迎えるにあたり

財団設立からともに歩んできたトウキョウ・ミタカ・フィルハーモニアのメンバーは、三鷹の公演をいつも楽しみにしています。リハーサルでは、普段気づかない細部の部分まで追求することで、新たな発見があります。演奏会が終わると、メンバーは普段演奏している場所に戻って多くの経験を積み、栄養を蓄えた状態で再び三鷹に戻って来るわけです。これを30年続けてきたことで、私自身も三鷹で学ぶことが多くありました。

長いようであっという間の30年でした。

様々な演奏を重ねてきましたが、今後は今取り組んでいるモーツァルトのピアノ協奏曲全曲シリーズを完遂させ、まだ三鷹で演奏していない交響曲やオペラ全幕演奏などをお届けしたいです。メンバーが指導するみたかジュニア・オーケストラの卒団生がプロとなり、ミタカ・フィルのメンバーとして演奏するという好循環の輪もできました。

三鷹の文化の核である芸術文化センターは、公演を楽しむだけでなく、市民の皆様達による活動など、色々な楽しみを享受できる場所です。このような幸せな環境を、今後もより多くの方に満喫していただきたいと願っています。

三鷹市美術ギャラリー ワークショップ



「壁に世界をみる」吉田穂高展
関連ワークショップ



美術ワークショップ
「グルグル によろよろ ピーン 糸で絵をかこう」

三鷹市美術ギャラリーが、NPO MAG-netとの協働でおこなっている教育普及事業のひとつとして、主に小学生を対象に美術ワークショップを開催しています。企画展に関連する鑑賞と創作を組み合わせたワークショップのほか、創作のみの短時間プログラムを年1回実施しています。芸術文化センター地下1階美術創作室を会場とする創作パートでは、参加する子どもたちが自由に発想し工夫して作品作りをおこなえるような内容を企画しています。美術に触れる中で、見て、感じて、考えたことを表現していく、その過程を十分に楽しむことのできる時間を提供しています。

三鷹市山本有三記念館 ワークショップ



「ハードカバーに挑戦!」



「文選」おしごと体験～「活字」を組み合わせ
「ドット文字」をつくってみよう～

三鷹市山本有三記念館が主催する教育普及事業のひとつとして、山本有三に親しむ機会の少ない小学生を対象に、有三を身近に感じてもらうための夏休み子どもワークショップを開催しています。ハードカバーの製本や活版印刷によるしおりづくりなど、山本有三に関連したテーマの体験を子どもたちにおこなってもらい、有三の生涯や作品について理解を深めてゆく内容となっています。ワークショップでの体験を自由研究にまとめる子どもたちも多く、日常生活ではめったに体験できない貴重な機会として、好評を得ています。

みたかジュニア・オーケストラ



コンサート終演後の集合写真



結団25周年記念演奏会(国際基督教大学)
礼拝堂にてパイプオルガンとの共演を実施

子どもたちが生き生きと合奏を楽しめる場所として平成11(1999)年に結団しました。小学4年生から高校3年生までの団員45人が在籍しています。指導はトウキョウ・ミタカ・フィルハーモニアのメンバーが中心となっておこなっています。風のホールでの演奏会のほか、三鷹市山本有三記念館でのアフタヌーン・ミニコンサート、三鷹市内の施設などでの訪問コンサートも開催しています。

小学校訪問演奏(三鷹市教育委員会受託事業)



「風の五重奏団」による演奏

三鷹市にある公立全15校をプロのアーティストが訪問してコンサートを開催しています。音楽室や体育館などで演奏を聴くだけでなく、演奏者による楽器の仕組みの説明を聞くことができます。楽器を触ってみたり、校歌と一緒に歌ってみたり、いろいろな体験コーナーを織り交ぜて実施しています。市内にある全ての公立小学校を訪問するのは全国的にも珍しい取り組みです。

三鷹市公会堂 光のホール／さんさん館

181-8555 東京都三鷹市野崎1-1-1
Tel: 0422-29-9868



光のホール



三鷹市公会堂は、三鷹市市民センターの一部として昭和40(1965)年に誕生しました。平成25(2013)年、リニューアルし、別館は「さんさん館」として生まれ変わりました。光のホールは、三鷹市内で最も大きな多目的ホールとして音楽、演劇、ダンスなどの公演から式典・大会など幅広い催しに、さんさん館は、会議や講習会、各種教室など身近な催しに利用することができます。財団設立以来30年間で光のホール、さんさん館あわせて約320万人の方々にご利用されました。

三鷹市公会堂探検ツアー

公会堂や舞台のお仕事を身近に感じていただくきっかけづくりとして、公会堂リニューアル以降毎年開催しています。音響・照明などの舞台裏を見学し、スポットライトの操作、照明卓を使用しての灯り作りの体験、奈落の見学などを行い、特にご家族連れから大変ご好評をいただいている事業です。



照明の操作体験



奈落へのミステリーツアー

赤ちゃんからのクラシック

光のホールでは、平成30(2018)年から毎年、0歳から入場できるコンサートを開催しています。楽器と歌の演奏だけでなく、ボディパーカッションを交えたり体を動かしたりと、お客さまと一緒に楽しむことができます。コンサートに参加することが難しい小さなお子さまのいらっしゃるご家族にご好評いただいています。



様々な楽器を交えた演奏



ボディパーカッション

狂言・落語・講談

光のホールでは、財団発足以来、「東西狂言の会」(野村万作、萬斎出演)を開催しています。質の高い日本の古典芸能に触れる機会として、多くの市民の方からご好評をいただいています。また、数ある落語公演の中でも人気の高い演者による落語・講談の公演は、光のホールを満席の状態で開催しています。



狂言舞台



春風亭一之輔 独演会

三鷹市山本有三記念館スケッチコンテスト(さんさん館展示室)

平成25(2013)年から毎年、「三鷹市山本有三記念館」をテーマにした絵画作品を、一堂に展示するコンテストを開催しています。来場者の投票と審査員の推薦によって選考された受賞作品は、三鷹市山本有三記念館に展示されます。お子さまから高齢の方まで、幅広い年齢層から応募が集まる人気の企画です。



第10回スケッチコンテスト



三鷹市美術ギャラリー

181-0013 東京都三鷹市下連雀3-35-1 CORAL5階
Tel: 0422-79-0033

三鷹市美術ギャラリーは、三鷹駅前(南口)商業ビルCORAL(コラル)5階という交通至便な立地と夜間開館を特徴とした施設として、平成5(1993)年10月に開館しました。年2~3本開催している企画展では優れた美術作品に触れる機会を提供し、企画展以外の期間には市民の作品発表の場として展示スペースの貸し出しをおこなっています。開館以来100万人を超えた利用者数の企画展と貸し出しの割合はほぼ半々で、市内外問わず多くの方々に利用されています。



②



① チラシ



③ チラシ



「三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展Ⅳ」(後期) 展示会場



「三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展Ⅴ」(後期) 関連ワークショップ 展示会場での対話型ギャラリートーク

開館から30年を超える長い期間の中で、美術ギャラリーではさまざまなジャンルの企画展を90本開催してきました。これらの中には、一人の作家やその家族を、複数回取り上げた展覧会があります。開館記念展「絵画新生の熱情 横山操展」(1993年)①では大作を含む代表作を揃えて作家の画業を紹介しましたが、その25年後の「横山操 ~アトリエより~」展(2018年)②では市内大沢のアトリエに残されていた未完の作品や愛用の筆などを展示し、より身近な画家自身に迫りました。同じ様に「記憶のドラマ 依田洋一朗 展」(2012年)と「日日はアート ニューヨーク、依田家の50年 展」(2019年)、「世界をめぐる吉田家4代の画家たちTHE YOSHIDA FAMILY展」(2009年)と「壁に世界をみる—吉田穂高展」(2019年)と「吉田千鶴子——踊れ、謳へ、描け」(2025年)は、一つの展覧会を機に、発展したシリーズです。それぞれ5年、10年という歳月で変化する社会情勢や、作家や作品への新たな研究成果や解釈などを踏まえ、展示方法の構成や演出、ボランティアガイドの導入などの鑑賞方法や、作品評価の変遷を展覧会というかたちで紹介してきました。

ここ10年で特に多くの方にご来館いただいた企画展としては、「タータン 伝統と革新のデザイン 展」(2018年)、「デビュー50周年記念 諸星大二郎展」(2021年)(美連協大賞受賞)、「HAIBARA Art & Design 和紙がおりなす日本の美」(2023年)③が挙げられます。

また、当館は常設展示室を持たないため、収蔵作品展を令和2(2020)年から5年にわたり定期的に開催し、公開機会の少ない所蔵品計1,000点を展示しました。

太宰治文学サロン

181-0013 東京都三鷹市下連雀3-16-14 グランジャルダン三鷹1階
Tel: 0422-26-9150



太宰治展示室 三鷹の此の小さい家

181-0013 東京都三鷹市下連雀3-35-1 CORAL5階 (三鷹市美術ギャラリー内)
Tel: 0422-79-0033



太宰治文学サロンは、太宰治の没後60年と翌年の生誕100年を記念して、平成20(2008)年12月に開設されました。令和4(2022)年3月にブックカフェとして生まれ変わり、毎月第三金曜日に太宰治作品朗読会を開催しています。

令和2年12月、「津島家寄託資料」「山内祥史文庫」をはじめとする、太宰治に関するさまざまな資料が寄贈・寄託されたことから、太宰治展示室 三鷹の此の小さい家が美術ギャラリー内に新設されました。太宰治が妻子と暮らした家を実寸大で再現し、三鷹での暮らしぶりや家庭人としての一面をうかがうことのできる展示施設として親しまれ、年2、3回の企画展示と、読書会「みたか太宰治作品倶楽部」を年1回開催しています。



桜桃忌当日の太宰治文学サロン館内の様子



太宰治作品朗読会



太宰治展示室の体験型展示室

太宰治



写真提供：三鷹市「石井立文庫」

太宰治(本名・津島修治)は、明治42(1909)年、青森県北津軽郡金木村(現・五所川原市)生まれ、地主階級の家に生まれたことに悩みながら、多感な少年時代を過ごしました。東京帝国大学への進学後、荻窪に住む井伏鱒二に師事。さまざまな文学仲間を得ながら旺盛な作家活動に没入し、結婚を機に、昭和14(1939)年9月、三鷹に居を構えます。生涯で残した小説約150作のうち80以上が三鷹で書かれ、終戦後は、駅周辺にも仕事部屋をいくつか借りて活動しました。しかし、流行作家となり多忙を極めるさなかの昭和23年6月13日夜半、愛人と玉川上水に身を投げ、命を絶ちました。それ以降、墓所である禅林寺では、生誕日の6月19日に、生前より親しかった人々によって「桜桃忌」が営まれ、世話人が解散したのちも、ファンが訪れています。



三鷹市山本有三記念館

181-0013 東京都三鷹市下連雀2-12-27
Tel: 0422-42-6233

三鷹市山本有三記念館は、山本有三の生涯と作品について紹介する施設として平成8(1996)年11月に開館しました。常設展のほか、山本有三や市の有形文化財である建物に関するさまざまなテーマの企画展を年に二回、開催しています。かつて有三が暮らした建物の中で、自筆の原稿や書、初版本のほか、眼鏡や湯呑、着用した和服などの愛用の品々を、当時の雰囲気を感じながらご覧いただくことができます。

そのほかにも、有三作品の朗読と楽器演奏のコラボレーションをお楽しみいただける春の朗読コンサートや、有三とゆかりの深い文化の日を実施する秋の朗読会、大正時代の洋風建築に響く管弦楽器の音色を味わうアフタヌーン・ミニコンサート、未就学児童を対象に絵本の読み聞かせや手遊びをおこなうおはなし会、建物内を探検する子ども向けイベントなど、毎月、さまざまなイベントを実施し、ご高齢の方からご家族連れ、お子さまに至るまで、幅広い年齢層の皆様から好評を得ています。



企画展「山本有三 没後50年
『濁流 雑談 近衛文麿』一燃ゆる創作への想い〜」



春の朗読コンサート



秋の朗読会



アフタヌーン・ミニコンサート



おはなし会



子ども向け解説「山本有三ってどんなひと？
〜洋館を探検しながら、山本有三を知ろう!〜」

山本有三



写真提供：三鷹市

山本有三は、明治20(1887)年、栃木県下都賀郡栃木町(現・栃木市)に生まれ、明治末期から大正時代にかけて劇作家として活動しました。大正末期には小説の世界に進出し、「波」や「女の一生」などを執筆。作家としての活動にとどまらず先駆的な子ども向け教養叢書『日本少国民文庫』の編纂も手掛けました。昭和11(1936)年から21年まで家族とともに三鷹で暮らし、代表作「路傍の石」や戯曲「米百俵」などを執筆しました。国語国字問題への取り組みや戦後の参議院議員としての活躍など、多彩な活動をしたことで知られ、昭和40年には文化勲章を受章しています。昭和49年に神奈川県足柄下郡湯河原町にて86歳で亡くなり、連載中の「濁流」が絶筆となりました。

三鷹市吉村昭書斎

181-0001 東京都三鷹市井の頭3-3-17
Tel: 0422-26-7500



三鷹市吉村昭書斎は、吉村昭の妻で作家、三鷹市名誉市民の津村節子氏より寄贈された、吉村がこよなく愛した書斎を移築・再現した施設として、令和6(2024)年3月に開館しました。吉村・津村の書籍が開架され、自由に読める交流棟と書斎・茶室・展示室のある書斎棟の2棟から成ります。

交流棟では常時映像の展示をしているほか、年2回の吉村昭作品朗読会を実施しています。また、書斎棟では年2回の企画展示、命日には書斎の玄関から中へ入ることができる特別イベント「悠遠忌」を開催しています。土日祝日はガイドボランティアによる解説をお楽しみいただけます。そして、地域との交流を深める施設を目指すため、秋に開催される井の頭コミュニティまつりに参加しています。



書斎棟(書斎)



書斎棟(展示室) 開館記念企画展示
「井の頭で暮らした吉村昭 三鷹市収蔵資料展」



吉村昭作品朗読会



交流棟

吉村昭



写真提供：三鷹市

吉村昭は、昭和2(1927)年5月1日、東京府北豊島郡日暮里町(現 荒川区東日暮里)に生まれました。昭和25年、学習院大学に入学し、文芸部で北原(のち津村)節子と出会い、結婚しました。丹羽文雄主宰の同人雑誌「文学者」に参加し、作品執筆に励み、4度芥川賞候補に選出されています。昭和41年、「星への旅」で太宰治賞を受賞。同年、「戦艦武蔵」を発表し、単行本はベストセラーとなりました。徹底した取材に裏付けされた記録文学を生み出す作家として注目され続けた吉村。生涯を通して、戦史、歴史、医学、動物、漂流、監獄など多岐にわたる題材の長篇小説、透明感のある詩的な趣に満ちた短篇小説、取材や執筆の様子などがつづられたエッセイを書き続けました。平成11(1999)年より5年間、太宰治賞の選考委員を務め、平成18年7月31日、自宅にて79歳で亡くなり、従四位旭日中綬章を受章しました。



みたか井心亭

181-0013 東京都三鷹市下連雀2-10-48
Tel: 0422-46-3922

みたか井心亭は、昭和58(1983)年に井上良則氏ご夫妻から土地の寄贈を受け、昭和63年に三鷹市によって建設されました。純和風数奇屋造りの文化施設で、寄贈者の心を大切にすることと、井戸のように尽きることのない文化活動の広がりを願う思いを込め、市民公募により名付けられました。施設は水屋付きの大広間と本格的な茶室の小間を備え、主に茶道・華道などの伝統文化活動に利用されています。庭内には作家・太宰治ゆかりの百日紅が移植されており、四季の移ろいを感じながら静かな環境の中で文化に触れられる地域の交流の場として、これまでに延べ23万人以上の方に利用されています。

また、日本の伝統文化を気軽に体験できる講座、未経験者を対象とした華道体験教室・茶道体験教室を開催しています。華道体験教室では季節の花材を用い、三鷹市華道連盟のご協力のもと、花ばさみの使い方やお花の扱い、生け方など、生け花の美意識や基本的な作法を学ぶことができます。茶道体験教室では三鷹市茶道連盟のご協力のもと、お茶の点て方やいただき方、客人としての振る舞いなど、お茶席での基本的な作法とおもてなしの心を学ぶことができます。日常の喧騒を離れ、みたか井心亭の風情ある空間で和の心に触れる機会として、小学生からご高齢の方まで幅広い世代の方が参加しています。



外観



内観



庭園



華道体験教室



茶道体験教室

Message



三鷹市芸術文化協会 会長
大浦美紀子

公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団の 設立30周年を迎えるにあたり

三鷹市スポーツと文化財団設立30周年おめでとうございます。
私たち芸術文化協会では貴財団の管理施設の利用により、充実した活動ができることを大変感謝しております。また、利用だけにとどまらず、貴財団が開催する華道や茶道の体験教室のほか、子どもたちのための芸術文化講座にも講師として関わらせていただいております。
これからも三鷹の芸術文化の振興や子どもたちの芸術文化体験の機会をつくる活動を、財団の皆さまと共に力を尽くしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー

181-0013 東京都三鷹市下連雀3-42-3 1階
Tel: 0422-29-9868 (三鷹市公会堂)



三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリーは、市民の美術作品などの発表の場として、また、画家桜井浜江の画業を顕彰する施設として、桜井のアトリエ跡地に令和4(2022)年4月に開設されました。財団では、「桜井浜江関係資料展」(2022年)、「福島修子展～私の存在論～」(2023年)①、「桜井浜江初期作品展」(2023年)②、「桜井浜江中期作品展」(2024年)③、「米谷清和の“ニューヨーク・メモ”展」(2025年)④、「桜井浜江後期作品展」(2025年)など、年に2回、主として桜井浜江を顕彰する企画展示をおこなっています。

一般利用者からは、駅から近いが閑静で綺麗で使いやすいとのお声をいただき、リピーターの方も増えつつあります。



開館記念展



①



②



③



④

桜井浜江



三鷹の自宅前にて

桜井浜江は明治41(1908)年、山形県に生まれ、大正14(1925)年、山形高等女学校卒業後補習科を修了し上京します。川端画学校洋画部や岡田三郎助の私塾に通い画家を志し、昭和6(1931)年独立美術協会の第1回独立展に入選。昭和14年三鷹市下連雀へ転居、昭和22年三岸節子らと女流画家協会を創立しました。翌23年独立賞受賞、昭和29年独立美術協会会員となります。独立展、女流画家展をはじめ秀作美術展等出品展多数。力強い筆致と生命感に溢れる画風が特徴とされ、平成19(2007)年に98歳で亡くなるまで、三鷹にアトリエ兼住居を構えて活動しました。

30年の歩み

主な活動	三鷹市の動き	社会の動き
1995年(平成7年)		
3月 財団法人三鷹市芸術文化振興財団設立 大関一郎理事長が就任	4月 三鷹市長に安田養次郎氏が再選	1月 阪神淡路大震災
4月 「寄席井心亭」第一夜開催	11月 三鷹市芸術文化センターがオープン	3月 地下鉄サリン事件
6月 財団友の会発足 Mitaka Arts Clubの略でMARCL(マークル)チケット管理、施設予約、友の会管理システムを導入		11月 Windows95発売
11月3日 三鷹市芸術文化センター開館記念式典開催 沼尻竜典&トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ(TMP)によるオープニング・ガラコンサートを開催		
1996年(平成8年)		
10月 財団友の会MARCL(マークル)会員数2,000人達成	4月 財団法人三鷹市まちづくり公社設立	7月 病原性大腸菌「O-157」による集団食中毒が流行 アトランタオリンピック・パラリンピック開催
11月 三鷹市山本有三記念館開館記念 「マントルピース思索」展を3期に分けて開催	8月 武蔵野三鷹ケーブルテレビ(パークシティ)開局	11月 バンダイが携帯ゲーム機「たまごっち」を発売
	11月 三鷹市有三青少年文庫が 三鷹市山本有三記念館としてオープン	12月 ベルー日本大使公邸事件
1997年(平成9年)		
1月 財団ホームページを三鷹まちづくり公社の ウェブサイト内に立上げ	9月 三鷹市総合保健センターがオープン	2月 神戸児童連続殺傷事件
		4月 消費税5%に増税
		8月 ダイアナ元妃事故死
1998年(平成10年)		
11月 「三木露風展一詩と宗教一」 三鷹市芸術文化センターアートスタジオにて開催 露風が三鷹で書いた詩稿などを公開	3月 「武蔵野(野川流域)の水車農家」が東京都の 有形民俗文化財に指定される	2月 長野オリンピック開催
	9月 日経新聞の「行政革新度調査」で 三鷹市が全国一位の評価	3月 長野パラリンピック開催
		7月 和歌山毒入りカレー事件発生
		11月 多摩都市モノレールが開業
1999年(平成11年)		
7月 「サマーフェスティバル in みたか」第1回開催	4月 三鷹市長に安田養次郎氏が3選 社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団設立	1月 ユーロ始動 携帯電話・PHSの電話番号11桁化
10月 みたかジュニア・オーケストラ(MJO)結団	5月 第15回(復活第1回)太宰治賞受賞者決定 (三鷹市・筑摩書房共同主催)	5月 瀬戸内しまなみ海道が開通
	9月 株式会社まちづくり三鷹を設立	12月 「東京ミレナリオ」初開催
	10月 「みたか市民プラン21会議」発足(2001年11月まで)	
2000年(平成12年)		
1月 沼尻竜典&TMPによる「ニューイヤー・ガラコンサート」開催	4月 新川丸池公園がオープン 三鷹産業プラザ(第1期棟)がオープン	4月 介護保険制度スタート
6月 「太宰治朗読会」第1回開催	9月 「みたかフェスタ2000」(市制施行50周年記念) 井の頭公園で開催	7月 二千円札発行 九州・沖縄サミット開催
9月 「親子で寄席で大笑い」第1回開催		9月 シドニーオリンピックマラソンで高橋尚子が金メダル
11月 「みたかジュニア・オーケストラ第1回秋期演奏会」開催 三鷹市市制施行50周年記念式典で演奏	11月 三鷹市市制施行50周年記念式典開催	10月 シドニーパラリンピック開催
2001年(平成13年)		
1月 公演時の託児サービスを開始	3月 兵庫県龍野市と姉妹都市提携	1月 田無市と保谷市が合併し、西東京市が誕生
2月 若手演劇フェスティバル「MITAKA "Next" Selection」 第1回開催	8月 玉川上水沿いの道路名称「風の散歩道」と市の新 キャラクター名称「ポキ」いずれも市民公募により決定	6月 大阪教育大附属池田小学校事件
5月 メールマガジン創刊	10月 三鷹市立アニメーション美術館 (三鷹の森ジブリ美術館)がオープン	9月 東京ディズニーシー開園 米国で同時多発テロ
6月~7月 MJOのミュージック・アドヴァイザーに沼尻竜典氏、 指揮者に内藤佳有氏、パート指導にTMPメンバーが就任		
2002年(平成14年)		
9月 三鷹の森ジブリ美術館開館1周年 「三鷹市民デー」でMJOが演奏	2月 国立天文台大赤道儀室・第一赤道儀室が 国有有形文化財に登録される	4月 学校で完全週5日制がスタート
9月~10月 「ミローマヨルカ島の光の中で」展の開催を機に、 教育普及事業におけるボランティアとの協働開始	4月 三鷹中央通りタウンプラザがオープン	5月 FIFAワールドカップ開催
	9月 日経新聞「行政サービス調査」で 三鷹市が「改革度」全国1位	10月 ノーベル物理学賞に小柴昌俊氏 ノーベル化学賞に田中耕一氏が受賞 北朝鮮拉致被害者5人が帰国
2003年(平成15年)		
4月 内田聖二理事長が就任	4月 三鷹市長に清原慶子氏が初当選 大沢野川グラウンドが利用開始	3月 新型肺炎SARSが流行 映画「千と千尋の神隠し」が 米アカデミー賞長編アニメーション賞を受賞
6月 三鷹市美術ギャラリー開館10周年記念 「再検証・高松次郎絵画作品」展開催	7月 三鷹産業プラザ(第2期棟)がオープン	4月 日本郵政公社設立
7月 持田明理事長が就任 「寄席井心亭」が第百夜を達成	12月 三鷹市市民協働センターがオープン	10月 宇宙航空研究開発機構(JAXA)が発足
2004年(平成16年)		
8月 MJOが「ジュニアオーケストラ・フェスティバル in 浜松」に出演	4月 三鷹市農業公園がオープン	8月 アテネオリンピック開催
10月 三鷹市山本有三記念館での朗読会を開始	12月 中近東文化センター 一般公開が三鷹市などの支援で再開	9月 アテネパラリンピック開催
		10月 新潟県中越地震発生

主な活動	三鷹市の動き	社会の動き
2005年(平成17年)		
6月 市内公立小学校全校への訪問演奏を開始	1月 三鷹市が「I都市」で世界のトップセブンに選ばれる	3月 2005年日本国際博覧会(愛・地球博)開幕
8月 都内の公立ジュニア・オーケストラ、合唱団を招いて 「みたかジュニア音楽祭」開催	4月 井の頭コミュニティ・センター新館がオープン	4月 個人情報保護法が全面施行 JR福知山線脱線事故
10月 友の会MARCL(マークル)会員数3,000人達成	6月 三鷹市がニューヨークで開催された「WTA」 インテリジェント・コミュニティ・フォーラムで世界一	6月 天皇皇后両陛下が太平洋戦争戦没者の慰霊の ためにサイパン島を訪問
11月3日 三鷹市市制施行55周年・三鷹市芸術文化振興財団 設立10周年記念事業開催 TMP創立10周年	7月 三鷹市が愛知万博(愛・地球博)に参加	7月 米スペースシャトル「ディスカバリー」打ち上げ成功 知床半島が世界自然遺産に登録
11月 文化庁委嘱文化ボランティア推進モデル事業として、 アートボランティア団体MAG-netと共同企画した 「COLORFUL温泉 絵画の湯」展を開催	9月 日本画家福王寺法林氏が三鷹市名誉市民に	10月 三鷹ネットワーク大学がオープン
10月 三鷹ネットワーク大学がオープン	11月 歌舞伎が世界無形文化遺産に登録	
2006年(平成18年)		
2月 インターネットによるチケット及び施設予約システムを稼働 友の会でポイントサービス開始	2月 三鷹市市制施行55周年記念 「みたか自治シンポジウム」開催	2月 トリノオリンピック開催 米国商務省国勢調査局の「世界人口統計」による 世界の推計人口が65億人突破
4月 三鷹市芸術文化センターをはじめとする5つの文化施設の 指定管理者となる	3月 三鷹駅南口駅前広場がオープン	3月 トリノパラリンピック開催
6月~10月 三鷹市山本有三記念館開館10周年特別展 「山本有三の郊外生活」開催	4月 三鷹市自治基本条例施行	3月 第1回ワールド・ベースボール・クラシック開催 日本代表が初代王者
7月 「没後30年 高島野十郎」展開催 三鷹市美術ギャラリー 開館以来、最高入場者数を記録(総入場者32,150人)	6月 新川丸池公園(第2期整備分)がオープン	8月 国際天文学連合により、冥王星が惑星から除外 新設された準惑星に分類される
10月 三鷹市主催「三鷹市名誉市民章受章記念 福王寺法林展」開催 日経新聞の「全国公立美術館の実力調査」で 三鷹市美術ギャラリーが小規模館ランキング全国一位の評価	10月 日経新聞の「行政革新度調査」で 三鷹市が全国一位の評価	10月 携帯電話の番号ポータビリティ制度開始
10月~ 三鷹市山本有三記念館開館10周年記念展 「山本有三トリベラリズムの時代」開催		
2007年(平成19年)		
1月 市内公立小学校訪問演奏の出演アーティストによる 「ニューイヤー・ファミリーコンサート」開催	3月 市立小・中学校で防犯カメラを設置	1月 国立新美術館が開館
4月 河村孝理事長が就任	4月 三鷹市長に清原慶子氏が再選 みたか都市観光協会設立	2月 第1回東京マラソン開催
9月~ 山本有三生誕120周年記念展「山本有三の生涯」開催		6月 アメリカでApple社の初代iPhoneが発売開始
11月 三木露風展〜三鷹で暮らした「赤とんぼ」の詩人〜を 三鷹市芸術文化センターで開催		8月 バーチャルシンガーソフトウェア「初音ミク」が発売
		10月 日本郵政公社民営化
2008年(平成20年)		
9月 天皇皇后両陛下が三鷹市山本有三記念館をご視察	1月 都立三鷹高校が全国高校サッカー選手権大会で ベスト8進出	3月 東京都交通局日暮里・舎人ライナー開業
9月~10月 三鷹市美術ギャラリー開館15周年記念 「スナップショットの時間展」開催	3月 太宰治没後60年と翌年の生誕100年を記念して 「太宰治文学サロン」がオープン	6月 秋葉原無差別殺傷事件
11月~12月 「太宰治 三鷹からのメッセージ-没後60年記念展-」開催		8月 北京オリンピック開催
		9月 北京パラリンピック開催 米国外大手投資銀行リーマン・ブラザーズが 経営破綻(リーマン・ショック)
		12月 日経新聞の「行政サービス調査」で三鷹市が初の 2冠を達成
2009年(平成21年)		
2月 三木露風生誕120年記念「こころを紡ぐ日コンサート」開催	7月 三鷹市星と森と絵本の家がオープン	2月 映画「おくりびと」が第81回アカデミー賞最優秀 外国語映画賞に選ばれる
4月 三鷹市山本有三記念館来館者30万人達成	9月 市立の全小中学校が小中一貫教育校化	5月 裁判員制度施行
7月 三鷹市山本有三記念館朗読コンサートを開始	12月 中央線(三鷹~国分寺駅間)高架化完了	6月 WHOが新型インフルエンザにパンデミック (世界的大流行)を宣言
10月 MJO創立10周年		
11月~12月 三鷹市市制施行60周年イベント 生誕100年記念写真展「太宰治の肖像」開催		
12月 「太宰治作品朗読会」を太宰治文学サロンにて開始		
2010年(平成22年)		
4月 MITAKA"Next"Selection10thに参加した劇団ままと公演 「わが星」が第54回岸田國士戯曲賞受賞	4月 三鷹市大沢総合グラウンドリニューアルオープン	1月 日本年金機構が発足 奈良県で平城遷都1300年祭が開幕
5月~7月 三鷹市市制施行60周年「生誕150年記念 アルフォンソ・ ミュシャ展」開催 1日の最高入場者数を記録(2,363人)	6月 JR三鷹駅開業80周年 発車メロディが中田喜直作曲「めだかの学校」に変更 初代国立天文台長の古在由秀氏と、アニメーション 映画監督の宮崎駿氏が三鷹市名誉市民に	2月 バンクーバーオリンピック開催
7月~8月 三鷹市市制施行60周年記念収蔵作品展「画家のかたち、 情熱のかたち」開催	10月 Pokiのマークが入った原動機付自転車の ナンバープレートが交付開始	3月 バンクーバーパラリンピック開催
9月 太宰治文学サロン来館者5万人達成		6月 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
10月 三鷹市市制施行60周年記念「ちいさい秋みつけた コンサート-中田喜直没後10年を迎えて-」開催	11月 三鷹市市制施行60周年記念式典開催	9月 尖閣諸島中国漁船衝突事件
11月~12月 三鷹市市制施行60周年記念展 「三鷹ゆかりの文学者たち」開催		10月 羽田新国際ターミナル開業

主な活動		三鷹市の動き		社会の動き	
2011年（平成23年）					
4月	公益財団法人へ移行し「公益財団法人三鷹市芸術文化振興財団」に名称変更	1月	三鷹市市制施行60周年記念事業「地域福祉フォーラム」開催	3月	東日本大震災 東電福島第一原発事故による計画停電
12月	三鷹市芸術文化センターが地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに功績があるとして「平成23年度地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞	4月	三鷹市長に清原慶子氏が3選	4月	英国ウィリアム王子がキャサリン・ミドルトンと結婚
		10月	三鷹の森ジブリ美術館開館10周年	12月	北朝鮮の最高指導者（当時）の金正日氏が死亡
		12月	三鷹市公会堂と公会堂別館の整備工事開始		
2012年（平成24年）					
1月	財団ホームページがリニューアル 財団公式Twitter（現X）稼働	2月	井の頭自然文化園のアジアゾウ「はな子」に65歳お祝い会で感謝状を贈呈	5月	東京スカイツリー開業
2月	「寄席井心亭」が第二百夜を達成	9月	三鷹を代表するおみやげ「TAKA-1（みたかセレクトONE）」に15商品認定	7月	ロンドンオリンピック開催
8月	三鷹市山本有三記念館夏休み子どもワークショップ開催	10月	秋篠宮同妃両殿下が「全国都市緑化祭」にご出席	8月	ロンドンパラリンピック開催
		12月	第1回井の頭公園検定（通称「いのけん」）開催	10月	ノーベル医学生理学賞に山中伸弥氏が受賞
2013年（平成25年）					
9月	三鷹市美術ギャラリー開館20周年記念「森秀貴・京子コレクションによる現代版画展」開催 「三鷹市山本有三記念館スケッチコンテスト」を三鷹市公会堂さんさん館にて開始	3月	三鷹市公会堂「光のホール」「さんさん館」がリニューアルオープン	5月	長嶋茂雄氏と松井秀喜氏が国民栄誉賞受賞
		4月	新ごみ処理施設クリーンプラザふじみ本格稼働	6月	富士山が世界文化遺産に登録
		10月	新川防災公園・多機能複合施設（仮称）の建設工事に着手 「三鷹フィルムコミッション」始動	9月	2020年の夏季五輪開催地が東京に決定
		11月	中田喜直生誕90周年を記念した歌碑を都立井の頭恩賜公園内に建立		
2014年（平成26年）					
8月	オーディションで選ばれた高校生10人が出演する演劇公演「わたしの星」を開催 裏方スタッフにも高校生5名が参加	1月	都立井の頭恩賜公園開園100周年に向けて井の頭池で「かいばり」イベント開催	2月	ソチオリンピック開催 東日本に豪雪 25年ぶりの大雪
8月～10月	竹久夢二生誕130年特別展「大正ロマンの恋と文～高相コレクションより～」開催	7月	三鷹市農業公園「開園10周年記念イベント」開催	3月	ソチパラリンピック開催
11月～	山本有三没後40年 絶筆「濁流」展開催	10月	三鷹市立図書館開館50周年記念「図書館フェスタ」開催	4月	消費税8%に増税
		11月	三鷹市・矢吹町姉妹市町締結50周年記念「第23回三鷹市民駅伝大会」開催	6月	富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録
				9月	御嶽山噴火
2015年（平成27年）					
2月	津端修理理事長が就任	1月	「みたかスペースあい」がオープン	1月	イスラム国（ISIL）による日本人拘束・殺害
3月	太宰治文学サロン来館者10万人達成	4月	三鷹市長に清原慶子氏が4選	3月	北陸新幹線長野駅 - 金沢駅間開業
7月	内田治理理事長が就任 MARCL友の会設立20周年謝恩企画「沼尻竜典 & 塩谷哲トークイベント」開催	8月	「戦後70年平和展」開催	6月	アメリカ合衆国の全州で同性結婚を合法化
11月3日	三鷹市芸術文化振興財団設立20周年 三鷹市公会堂開館50周年 TMP創立20周年	11月	市制施行65周年三鷹市名誉市民表彰式を開催 作家の津村節子氏が三鷹市名誉市民に	11月	パリ同時多発テロ事件
2016年（平成28年）					
4月	三鷹市芸術文化振興財団から三鷹市スポーツと文化財団に改組	2月	特設サイト「みたかデジタル平和資料館」を市ホームページに公開	5月	伊勢志摩サミット開催 米大統領バラク・オバマが広島訪問
7月	「トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ」が「トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア」に名称変更して初めての演奏会を開催	4月	杏林大学井の頭キャンパスがオープン	7月	国立西洋美術館が世界文化遺産に登録 相模原障害者施設殺傷事件
		8月	「三鷹市ごみ分別アプリ」配信開始 元気創造プラザ4階に「新事業準備室」開設	8月	新たな祝日として「山の日」が加わる リオデジャネイロオリンピック開催
		11月	総合スポーツセンターのネーミングライツ・パートナーが決定 愛称は「SUBARU総合スポーツセンター」	9月	リオデジャネイロパラリンピック開催
2017年（平成29年）					
4月	三鷹中央防災公園・総合スポーツセンター・生涯学習センター・屋外スポーツ施設の指定管理者となる	4月	「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」がオープン	4月	フィギュアスケート選手の浅田真央が現役引退を表明
7月	劇団ままごと「わたしの星」再演 集客数2,700人達成	5月	都立井の頭恩賜公園開園100周年	6月	恩賜上野動物園でジャイアントパンダの「シャンシャン」が誕生
12月	生涯学習センターフェスティバルを初開催	6月	三鷹市山本有三記念館が長期休館（翌年3月まで）		
		12月	三鷹中央防災公園中央広場のネーミングライツ・パートナーが決定 愛称は「日本無線 中央広場」		
2018年（平成30年）					
1月	MITAKA “Next” Selection で招聘した劇団風琴工房の「アンネの日」が芸術選奨新人賞受賞	1月	大沢総合グラウンド夜間照明設備及び多目的スポーツ広場がオープン	2月	平昌オリンピック開催
8月	三鷹市美術ギャラリー開館25周年記念「横山操 ～アトリエより～」開催	3月	三鷹市山本有三記念館がリニューアルオープン	3月	平昌パラリンピック開催 第90回アカデミー賞にて辻一弘が日本人史上初となる最優秀メイクアップ &ヘアスタイリング賞を受賞
9月	年齢、性別、運動センスや運動経験、障がいの有無に関わらず誰でも楽しめる「ゆるスポーツ体験教室」を実施	10月	三鷹産キウイフルーツを使用した「果肉入りキウイ酒」を新発売	7月	オウム真理教事件に関与した死刑囚13人の死刑執行
		11月	「三鷹市大沢の里古民家」がオープン	9月	歌手の安室奈美恵が引退
2019年（平成31年・令和元年）					
3月	MJOが三鷹コラルで演奏会開催	4月	三鷹市長に河村孝氏が初当選 三鷹エコミュージアム研究誌『みいむ』創刊特別号を発行	4月	第125代天皇明仁が退位（譲位）
9月	太宰治生誕110年特別展「辻音楽師の美学」を三鷹市美術ギャラリーで開催	6月	大成高校サッカー部がインターハイ初出場	5月	徳仁が第126代天皇に即位し、「令和」に改元
11月	ミスノ流忍者学校を開催（SUBARU総合スポーツセンター）	7月	三鷹市星と森と絵本の家が開館10周年	7月	百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録
12月	2019ポッチャみたかカップを初開催	10月	大沢の里水車・古民家まつりを初開催	9月	令和元年房総半島台風（台風15号）が関東地方東部に上陸
				10月	消費税10%に増税

主な活動		三鷹市の動き		社会の動き	
2020年（令和2年）					
4月	新型コロナウイルスの影響により、4月から10月までの全ての公演事業が中止	3月	SUBARU総合スポーツセンター弓道場・アーチェリー場がオープン	2月	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を「指定感染症」に指定 全国の小中高が臨時休校
6月	馬場木賢一理事長が就任	4月	「三鷹まるごと博物館」ホームページ開設	4月	WHOが新型コロナウイルス感染症にパンデミック（世界的大流行）を宣言 東京2020オリンピック・パラリンピックの延期を発表
8月	トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア「第81回定期演奏会」開催 その後、YouTubeにて期間限定配信	7月	「デリバリー三鷹」が市内全域でスタート	3月	WHOが新型コロナウイルス感染症にパンデミック（世界的大流行）を宣言 東京2020オリンピック・パラリンピックの延期を発表
		10月	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて三鷹市がチリ共和国のホストタウンに決定	5月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言を发出
		11月	市制施行70周年	11月	第71回NHK紅白歌合戦が放送開始以来初の無観客開催
		12月	三鷹市美術ギャラリー内に「太宰治展示室 三鷹の此の小さい家」がオープン	12月	第71回NHK紅白歌合戦が放送開始以来初の無観客開催
2021年（令和3年）					
1月	市民大学総合コースで初めてオンライン（Zoom）を活用した講座を実施	1月	市民課窓口にキャッシュレス決済とセミセルフレジを導入	1月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2度目の緊急事態宣言を发出
3月	「みたかバーチャル市民駅伝大会」開催	2月	「デリバリー三鷹」が地域再生大賞で優秀賞を受賞	7月	熱海市伊豆山土石流災害が発生 東京2020オリンピック開催
4月	土屋宏理理事長が就任 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言に基づき4月から5月にかけて各施設が休館	3月	『三鷹まるごと博物館マップ』を発行	8月	東京2020パラリンピック開催
8月	「デビュー50周年記念 諸星大二郎展 異界への扉」（後期のみ予約制）が美連協大賞受賞	11月	市民参加でまちづくり協議会～Machikoe（マチコエ）～発足（2023年12月まで） トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督の沼尻竜典氏と、元市長の安田養次郎氏が三鷹市名誉市民に	11月	3代目新500円硬貨が発行
2022年（令和4年）					
4月	「三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー」の指定管理者となる	3月	「太宰治文学サロン」がリニューアルオープン	2月	北京オリンピック開催 ロシアがウクライナへの侵攻を開始
7月	「寄席井心亭」が第三百夜をもって終了	4月	「三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー」がオープン	4月	北京パラリンピック開催
10月	元気創造プラザ、新川テニスコート及び大沢総合グラウンドに設置している券売機がキャッシュレス決済の取扱いを開始	9月	NPO組織「Mitaka みんなの防災」の設立記念イベントとして「みたか防災マルシェ2022」を開催	7月	安倍晋三銃撃事件
		10月	「星空の街・あおぞらの街」全国大会を三鷹市で開催 三鷹ネットワーク大学が環境大臣賞を受賞	9月	英国エリザベス女王が崩御
2023年（令和5年）					
2月	「大沢野川グラウンド」の指定管理者となる	4月	三鷹市長に河村孝氏が再選	4月	こども家庭庁発足
5月	「大沢野川グラウンド」の使用を再開	11月	みたか都市観光協会の設立15周年を記念して「みたか宙球（そらだま）ゼリィ」を開発	5月	新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行 G7広島サミット開催
6月	三鷹市美術ギャラリー開館30周年記念「三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展IV」開催	12月	「三鷹ご線人道橋（陸橋）」で渡り納めイベントを開催	10月	インボイス制度開始
9月	「三鷹市吉村昭書斎」の指定管理者となる				
12月	第1回三鷹中央防災公園・元気創造プラザまるごとウェルカムデー開催				
2024年（令和6年）					
2月	中田喜直生誕100周年記念「めだかの学校ファミリーコンサート」を開催	3月	「三鷹市吉村昭書斎」がオープン	1月	能登半島地震
4月	三鷹市芸術文化協会事務事業開始	4月	市立小・中学校の給食費を無償化	7月	日本銀行が20年ぶりに新しい日本銀行券を発行
9月	MJOが国際基督教大学で「結団25周年記念演奏会」開催	5月	市協定を結ぶ東芝プレイブルーバス東京が「NTT JAPAN RUGBY LEAGUE ONE 2023-24」で優勝	8月	パリオリンピック・パラリンピック開催
11月	親子野外キャンプ教室を開催（協力：国際基督教大学） 「トラスソス三鷹スクール」開講 「アール・ブリュットみたか2024」開催	9月	東京天文台（現：国立天文台）が三鷹へ移転して100周年		
2025年（令和7年）					
3月	「三鷹天命反転中!!——荒川修作+マドリン・ギンズの死なないためのエクササイズ」開催	4月	大沢の里古民家と農具・古文書が東京都の有形民俗文化財に指定される 「三鷹まるごと博物館かるた」を発売	1月	八潮市道路陥没事故
4月	「三鷹市井口グラウンド」の指定管理者となる MJO指揮者に御法川雄矢氏が就任	7月	「三鷹市井口グラウンド」がオープン	4月	2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開幕
6月	三鷹市所蔵「太宰治資料展1期」開催	8月	三鷹市創業支援&コワーキングプレイス「M-PORT」を開設 戦後80年平和事業「中学生長崎市平和交流派遣事業」を実施	6月	長嶋茂雄（読売ジャイアンツ終身名誉監督）が死去 トカラ列島近海を震源とする地震発生
7月	トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア設立30周年を記念して「91回定期演奏会」にてオペレッタ『こうもり』を上演			9月	国立競技場で第20回世界陸上選手権大会開催
11月3日	財団設立30周年を迎える				

現役員

現評議員・理事・監事（五十音順）

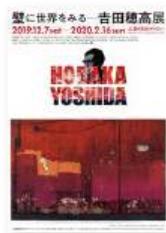
理事長 土屋 宏

常務理事 岩崎好高 室谷浩一

理事 生田美秋 大朝摂子 大浦美紀子 沢井史穂 高松真也 野原英裕 福野明子 山下政一 和田光広

監事 井上淳子 堤 信之

評議員 青木玲子 池田有也 岡田眞由美 加藤綾子 小谷野芳文 中泉きよし 平山 寛 三橋優子 村重盛紀 矢崎喜美子 吉田 繁



公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団

181-0012 東京都三鷹市上連雀6-12-14 Tel: 0422-47-5122 <https://mitaka-sportsandculture.or.jp>

design: Fumiki Tomioka